なめがたをあるく

心地よい余韻の響き ～宝憧院銅鐘～

宝憧院銅鐘

舘　亮恭さん

大般若経600巻の教典

宝憧院（ほうどういん）は天台宗の寺で、旧鹿島鉄道玉造町駅跡近くの加茂地区にあります。寺伝によれば、約千二百年前、最仙上人によって創建され、この地には、江戸時代に徳川光圀の命により移されました。寺の境内には、茨城県指定有形文化財の銅鐘（どうしょう）があります。この銅鐘は、中世の玉造城主、玉造憲幹が永享3年（一四三一）に寄進。寺は江戸時代になって3度も火災に見舞われ、寛永12年（一六三五）の火災では、鐘も炎に包まれ、筋割れが入り、鳴らなくなってしまいましたが、延宝8年（一六八〇）に江戸神田の鋳物師の手で再鋳され、元の響きを取り戻しました。幕末に、徳川斉昭が海防のため、藩内の鐘を集め、大砲を鋳造した時や太平洋戦争中の金属回収の際も、地元の人々の熱意で由緒ある名鐘として残され、浄（きよ）らかな響きを今に伝えています。

今回、宝憧院住職の舘亮恭さんに、鐘の音色の特徴や大晦日深夜の行事などを伺いました。

「鐘は、金を入れると音色がよくなるため、江戸時代の再鋳の時、地元の方がかんざしなどを提供したそうです。大晦日は、午後11時45分頃から元朝護摩を焚き、希望者には護摩札を差し上げています。除夜の鐘は、0時前から撞き始めます。寺側が撞いた後は、一般に開放し、自由に撞かせています。この日以外にも、寺に参拝の際は、ご自由に撞いていただき、心地よい余韻の響きを味わってください。地元では、銅鐘が加茂地区の財産であるという気持ちが強いので、寺としても後世に伝えていきたい」

この寺では、古くから「村祈祷（むらきとう）」と呼ばれる行事が正月に行われています。これは、大般若教（だいはんにゃきょう）六百巻を転読という作法により唱え、地域の安全を祈願するもので、家内安全のお札が各戸に配られます。現在は、10地区余りを残すだけとなっております。

ルーキー ROOKIE

市内で頑張るフレッシュな人を紹介していきます！

瀧ヶ﨑さん（株式会社　井川食品）

私たちは、「安全でおいしくて、しかも安い」を目標に毎日たくさんの納豆を生産しています。私は主に機械のメンテナンスを担当しています。「どうすれば機械が順調に動くのか、働く人が作業がやりやすくなるのか？」と日々考えながら作業しています。設備の面からも「おいしい納豆づくり、働きやすい環境づくり」に頑張っていきたいです。

◆編集後記◆ Editor's note

麻生庁舎に通う私は、毎晩、麻生公民館の幻想的なイルミネーションの光景を車窓から眺め、元気をいただきました。皆様にとって平成22年が健やかで希望に満ちあふれた一年になりますよう、心からお祈り申し上げます。（保）

開港間近の茨城空港を特集。コストを下げ、航空会社、そして使う人にとって利用しやすくするための工夫が随所に感じられました。皆さんが積極的に利用することが発展につながっていくのではないでしょうか。（友）

市報行方第53号／発行・編集　行方市秘書広聴課／〒311-3892 茨城県行方市麻生1561-9 ☎（0299）72-0811 Fax（0299）72-2174 URL http://www.city.namegata.lg.jp/ ／E-mail name-info@city.namegata.lg.jp